

今月のことば

二人が
睦まじくいる
ためには
愚かだている
ほうがいい

(吉野弘『贈るうた』(花神社)より)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき

「二人が睦まじくいるためには 愚かだているほうがいい」

これは、吉野弘さんの創られた詩、『祝婚歌』の冒頭の部分です。普通は、「二人が仲良く過ごすためには、思いやりの心を持ちなさい」とか、「相手に対して優しくしなさい」とか言いそうですが、吉野さんは、「愚かだているほうがいい」と言われているのです。通常の発想とは全く違います。ただ、この内容は、浄土真宗の味わいに、とても近いように感じます。

親鸞聖人は、お手紙(『親鸞聖人御消息』)の中で、「世のなか安穩なれ 仏法ひろまれ」という言葉を残されています。この「世のなか安穩なれ」という言葉は、「世の中が安らかで穏やかになりますように。そのために、思いやりの心を持った立派な人になりましょう」という意味ではないのです。

自己中心の心から離れられず、本当の意味で、他人のことを思いやることのできない愚かな存在が、私たちなのです。そして、そのことに気づかせてくれるのが、仏さまのみ教えなのです。ですから、「世のなか安穩なれ」の後に、「仏法ひろまれ」という言葉が続くのです。

仏さまのみ教えによつて、みんなが自らの愚かさ(自己中心性)に気づかされるところに、世の中が安穩になる道が、少しずつ開けてくるのです。

合掌